

滝沢ダム

～荒川の最上流に建設されたダム～

形式は重力式コンクリートダムで、ダムの高さは132m、総貯水容量は6300万 m^3 、湛水面積は1.45 km^2 という国内屈指の規模を誇ります。



滝沢ダム



堤体を下流より望む



主管放流設備

主管放流設備

事業目的

昭和30年代に入るや、1958・1959（昭和33・34）年には連続水害が発生し、1985（昭和60）年水需給見通しでは、都市用水の需要は飛躍的に増加するものと見られ、荒川水系のダム建設は必須のものとなってきました。滝沢ダムは、1965（昭和40）年から建設省により事業が進められてきましたが、その後、水資源開発促進法並びに水資源開発公団法に基づき1976（昭和51）年10月水資源開発公団（現・水資源開発機構）に承継されました。滝沢ダムの事業目的は以下の4つです。

洪水調節	ダム地点の計画高水流量毎秒1,850 m^3 のうち1,550 m^3 をダムで調節し、ダム下流域の洪水被害の軽減をはかります。
水道用水の補給	埼玉県・東京都の水道用水として、新たに毎秒4.6 m^3 の取水を可能にします。
既得取水の安定化・河川環境の保全	河川流量が豊富なときにダムに貯留し、河川に必要な流量が不足しているときにダムから水を補給することによって、荒川沿川の既得取水の取水安定化を図ります。また、河川環境保全のために河川に必要な流量を確保します。
発電	ダムからの放流水を利用して東京発電㈱が最大出力3,400kwの発電を行います。

▶ 30年越しの壮大なプロジェクト、日本屈指の未来派ダム

滝沢ダムは、荒川の最上流、中津川に建設されたダム。1965（昭和40）年に予備調査を開始し、1978（昭和53）年に付帯県道工事に着手。本体工事が始まったのは1999（平成11）年で、2011（平成23）年に建設事業が完了しました。滝沢ダムの形式は重力式コンクリートダムで、ダム高は132m、総貯水容量は6300万 m^3 、湛水面積は1.45 km^2 という国内屈指の規模を誇ります。

この滝沢ダムは自然環境の保全・景観に最大に考慮しており、たとえば本体工事に先駆けた国道工事では、2000（平成12）年10月にダム下に雷電廿六木橋（らいでんととろきばし）というループ橋を完成させています。この橋は夜になると手すりの部分が蛍のように光るライン照明を採用、昆虫や野鳥への影響を極小化しています。

これら自然への配慮と景観美などから雷電廿六木橋は土木学会の賞も受賞しています。140号線の一部はバスのフリー乗車区間なのでクルマでなくとも行けます。

所在地：秩父市	堤高：132.0m
ダム形式：重力式コンクリートダム	堤頂長：424.0m
完成：平成22年度完成	堤体積：167万 m^3
総貯水容量：6300万 m^3	事業者：独立行政法人水資源機構

ダム諸元

▶ 水源地の人々の理解と協力で作られるダム

ダムは完成すると、広い範囲の土地を水の底にしずめます。そのため、そこに住んでいる水源地の人たちは、長い年月にわたり働き生活していた土地をはなれ、別の場所に移転しなければなりません。ダムを必要とするみんなの願いを、水源地の人たちに理解してもらい、協力してもらうことで、ダムは造られているのです。



滝沢ダムの完成で、ダム湖にしずんだ集落。ここに住んでいた人は移転しました（浜平地区）

コラム 雷電廿六木橋

雷電廿六木橋は、埼玉・山梨両県を結ぶ一般国道140号「彩甲斐街道」の一部として建設された橋です。山梨県側には「滝沢ダム」があることから、2本の橋（廿六大橋270m、大滝大橋345m）によるループ形状により高度を稼いでいます。その高い技術と美しいデザインは、多方面から高い評価を受け、土木学会田中賞、土木学会デザイン賞（最優秀賞）、グッドデザイン賞など数々の賞を受賞しています。



雷電廿六木橋

アクセス

滝沢ダム

交通：秩父鉄道「三峰口駅」より、西武バス「中津川」行き利用、「滝沢ダム」下車

住所：埼玉県秩父市大滝3021



滝沢ダム

